

術前の身体的フレイルが経皮的僧帽弁修復術 (M-TEER) 後の 再入院率と全死亡に与える影響

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

僧帽弁閉鎖不全症という病気は、進行すると心不全や生命予後に重大な影響を及ぼす可能性があります。特に高齢者や併存疾患を有する方は、外科的弁置換術のリスクが高く、低侵襲な治療法の選択が求められます。日本では経皮的僧帽弁修復術 (M-TEER) は、2018 年に保険承認され、僧帽弁閉鎖不全症に対する低侵襲な治療法として確立されつつあります。当院では、2018 年 6 月より M-TEER を導入しており、2025 年 1 月時点で通算 250 例を達成しました。

この研究では、M-TEER 治療前後での患者さんの診療記録を調査し、術前フレイルによる再入院率と全死亡に与える影響を検証することで、より適切な治療戦略の構築や術前リハビリテーションの有用性を検証することを目的としています。

診療の中で得られた情報を使用します。この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2018 年 6 月～2024 年 8 月に当院で経皮的僧帽弁修復術 (M-TEER) を受けられた方

使用する試料・情報

年齢、性別、BMI、既往歴 (HT, DM, CKD, PAD, CAD, AF/AFL)、服薬情報、NYHA、介護認定の有無、直近 1 年の心不全入院回数、在院日数、転帰、心不全再入院の有無、全死亡の有無、血液検査 (BNP, NTpro-BNP, eGFR, Hb, Alb)、MMSE、身体的フレイル評価 (J-CHS 基準：握力、歩行速度、問診から得た情報)
使用開始予定日：2025 年 09 月 11 日

研究予定期間

2025 年 09 月 11 日～2026 年 05 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

〔研究の情報管理責任者〕 リハビリテーション部 稗方 孝太

〔当院の個人情報管理責任者〕 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を

閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 リハビリテーション部 稗方 孝太 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号 電話：096-351-8000(代表)
---------------	---